



Title	『諸国方言物類称呼』研究：仙台方言についての記述を中心に(二〇〇四年度卒業論文要旨集)
Author(s)	木村，悠衣
Citation	札幌国語研究，10：96-96
Issue Date	2005
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/2709
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

『諸国方言物類称呼』研究

― 仙台方言についての記述を中心に ―

国語学研究室 一〇三九 木村 悠衣

本研究は、日本で初めて全国各地の方言を収録した『諸国方言物類称呼』（一七七五年刊行）の記述のうち、仙台、南部、庄内の三地域の方言についての記述の信頼性の有無を調べたものである。本書は、方言研究を行ううえで重要な資料とされているが、各地で直接調査を行い収集した語は少なく、本草学の書を参考にしたのではないかという先行研究が主なもので、記述の信頼性の有無については、明らかにされていない。

研究方法として、『諸国方言物類称呼』に記述されている方言形のうち、奥羽地方の十七地域の語と、江戸時代に仙台、南部、庄内の三地域で著された七方言書との比較を行った。

三地域の方言についての記述のうち、仙台については、「奥羽」「奥州仙台」の語として収録されている語の一致率が他の地域よりも高く、南部についても、「奥羽」「奥の南部」の語の一致率が、高かった。庄内については、総語数が少なく一致する語も少なかった。また、仙台については、「奥州仙台」の語に本草学関係のものが少なく、本草学の書を参考にしたとはいえないと考えた。

仙台、南部については、「奥羽」「奥州仙台」「奥の南部」の方言として記述されている語の一致率が、他の地域よりも高かったことから、ある程度の信頼性があることが確認できた。